

飲水思源

町長 松岡市郎

晩節を汚さず、楽しい人生を送ること

私たちが子どものころは子育てのための保育園などなく、農家ではどの家庭も小さな子の保育はもっぱら祖父母が中心となっていたようだ。私の祖父は51歳の若さで亡くなったが、祖母と一緒に過ごす時間が多く、話を聞くのが楽しみだった記憶がよみがえる。

話はいつも日本一の桃太郎とかべや姫、人生訓として「立つ鳥跡を濁さず」「我（わ）が田に水を引くな」「晩節を汚すな」などを解説付きで聞かされたものだ。祖母は小学校で学んだ経験がなく、読み書きはできないと聞かされていたが、カタカナで少々の文字を書いた。文字の読み書きができない祖母が、童話や人生訓をどのようにして覚えたのか不思議である。きっと親から口承されてきたのである。大切な人生訓はいつの時代にも伝えられてきているのだと思う。

さて先日、ある首長経験者のお話の中で、「晩節を汚す」ということが話題になった。一度その座に着くと、さまざまなかから注目を浴び知名度も高まるが、その座を去ると寂しさを感じ、なかなか華やかな当時の感覚から抜け出せず、注

目を得ることを求めるようになる場合があるという。その結果、根拠や確証がないにもかかわらず、自らの主張をあたかも正しいものと装い、強引にこじつけて正当化しようとする公職経験者らがいるようだ。

過去の自分の行為や歩んだ時代のごことは顧みず、他人に対して批判を繰り返す。自分は絶対正しいという善魔に取りつかれ、他人は駄目と主張する。思い違いや解釈の誤りから、時には常識さえも非常識扱いにすることがあるという。

職を辞した折には「人に迷惑を掛けず、お互いに晩節を汚さないように心掛けたものだ」と一致した。「晩節を汚さず」は、かつて支持されていた方々への最低のマナーであり、また支持者の思いでもあると思う。

今から10数年前、「僕は10年若かったら知事に立候補していた」と言った首長を思い出した。すごい自信だと驚いたが、今はどのような時を過ごしておられるのであろうか。昔の人々からの教えを心の大きな支えとして、「晩節を汚さない」ように楽しい人生を送りたいものである。

すべての神様の十月(一般書)

小路 幸也/著 PHP研究所/刊



榎本帆奈は驚いた。行きつけのバーで隣り合ったハンサムな男性は死神だったからだ。帆奈に召喚されたという死神は、いままで一度も「幸せ」を感じたことがないらしい。なぜなら「幸せ」を感じた瞬間、死神は…。人は、時に感謝したり絶望したり、大事なものを見失いかけてたりするもの。そんな人々の前に現れる神様の「意外な目的」が胸を打つ短篇集。

プラチナデータ (DVD 映画)

東宝



主人公、神楽龍平は警察庁に所属する天才科学者。いくつもの難事件を解決してきた彼は、DNA捜査の重要関係者が殺される連続殺人事件を担当する。その日本では全国民のDNAデータが極秘裏に集められ、そのデータから犯人を特定する最先端の捜査が可能になっていた。検挙率100%、冤罪率0%の社会が訪れようとしていたが、担当した事件を捜査してみると、DNA捜査システムがわずかな証拠から導き出した犯人は、なんと神楽自身だった。(134分)

貸し出し図書 ビデオ紹介

文化交流館
☎82-4245

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています★
1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間

貸し出し検索

<http://www.lib-finder2.net/higashikawa/servlet/Index>



思い出のマーニー 上・下 (児童書)

ジョン・ロビンソン/著 岩波書店/刊



養い親のもとを離れ、海辺の村の老夫婦に預けられた少女アンナは、同い年の不思議な少女マーニーと友だちになり、毎日2人で遊びます。ところが村人は、だれもマーニーのことを知りません。やがてマーニーは、無人のさびしい風車小屋でアンナを置き去りにし、姿を消します。彼女を探すうち、アンナはマーニーの思いがけない秘密を知ってしまいました。ジブリ映画の原簿本。